

2021~2022年度 第7回理事会議事録

日時：2021年9月16日(木) 13:40~/場所：ダイワロイネットホテル和歌山4F

Table with columns for attendees (出席者), topics (議題), discussion items (審議事項), agreement items (協議事項), and report items (報告事項).

ここにこ箱

- List of members and their messages, including birthday wishes and thank-you notes.

本日の累計...113,000円(計19名21件) [誕生日献金...100,000円 奥様花お礼...50,000円 皆出席表彰...10,000円 その他...281,000円 累計...441,000円]

本日の例会 9月30日(木)

- 卓話「本を忘れず~人の心に貯金する」
ピアノ演奏 中井 利枝さん

次回の例会 10月7日(木)

- クラブフォーラム「米山記念奨学会」
卓話「日本での生活」

前回の例会 9月16日(木)

- 国際ロータリー第2640地区 豊岡 敬 ガバナー公式訪問
ロータリーソング 関戸 正浩

メーキャップ (敬称略)

- 9月8日(水)和歌山西R.C.
9月15日(水)和歌山西R.C.
9月22日(水)和歌山西R.C.

出席報告 会員数45名(内出席規定適用免除会員8名) 2021年9月16日(本日) 33名/40名 82.5% 皆さん、出席してください。



手をとり合って、社会の為に

2021-2022年度 和歌山東ロータリーのテーマ

SERVE TO CHANGE LIVES 2021-2022年度 国際ロータリーのテーマ

国際ロータリー第2640地区 和歌山東ロータリークラブ URL:http://www.werc.jp E-mail:info@werc.jp

2021年9月30日(木) 週報 / VOL.63 No.10 (通巻2942)

会長報告 瀧川 嘉彦 会長



皆さんこんにちは。 コロナに関しては理由ははっきりしませんが全国的に減少傾向となり和歌山県でもかなり落ち着いてきました。このまま減少していくことを祈りたいと思います。

今週月曜日に9ロータリークラブ会長幹事会がありまして以前にお知らせした和歌山城ホールへの寄贈品が置時計ということに決まりました。

さて本日はガバナー公式訪問で国際ロータリー第2640地区2021-2022年度ガバナー豊岡 敬様にお越しただいております。この後ガバナーアドレスをいただきますが、今年はコロナ禍でPETSと地区協議会もオンラインでしたのでガバナーに直接お目にかかる機会が少ないので本日はとても楽しみにしています。

幹事報告 角谷 芳伸 幹事



- 2640地区よりガバナー月信が届いております。
こぼと学園だより



お誕生日お祝い



- 内畑 瑛造さん(89歳) 赤井 雅哉さん(57歳)
関戸 正浩さん(53歳) 上田 泰孝さん(49歳)
北浦 康臣さん(48歳)

おめでとうございます



ご出産お祝い



木下 智仁さん 7月29日に ご長男が誕生されました。

おめでとうございます



## ガバナーアドレス 国際ロータリー第2640地区2021-2022年度ガバナー 豊岡 敬さん



2019年末に中国で発生しました新型コロナウイルスの世界的な感染流行は、ロータリーにも多大な影響を与えました。2021年2月にアメリカのオーランドで開催が予定されておりました国際協議会は、初めてオンラインによるバーチャル開催となりました。RIからは、2021年6月末までは、バーチャルでの対応を基本にするように指針が出されまして、「地区チーム研修」「PETS 会長エレクト研修セミナー」「地区研修協議会」は、YouTubeによるライブ配信や冊子の配布による代替えとなりました。

また、青少年交換プログラムについても、2022年6月末までの一時休止となり、その他プログラムにおいても例年とは違い、開催の取り止めや、オンラインでの対応となっております。

今後、ワクチン接種の普及によって、新型コロナウイルスの感染が終息することを願いたいのですが、変異株の感染流行などもあって、予断を許さないように思われます。

ロータリーの例会、奉仕、親睦においても安全・安心が第一です。しかしながら、休会続きであれば、会員さん達の心は自然とロータリーから離れていってしまいます。オンライン等を上手に使いながら、新しいスタイルを確立してみてください。

私は、本年度の地区スローガンを「広げようロータリーの光を!」としました。伝教大師・最澄の言葉に「一隅を照らすこれ即ち国宝なり」があります。ロータリアン一人一人は、その職業において、奉仕活動において、青少年の健全な育成において、世の中を明るく照らす光であると考えます。そして、世の中をよりよくするために、志を同じくする人を増やして、光の輪を広げていきたいと考えます。なお、元松原中ロータリークラブの泉本信彦会員が作詞・作曲した「奉仕の光」をテーマソングにさせて頂きました。ロータリーソングの一つとして長く歌い継がれることを望みます。

RI会長のシェカール・メータ氏は、本年度テーマを「奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために」(Serve to Change Lives)とされました。奉仕するとき、誰かの人生だけでなく、自分の人生も豊かになります。アルバート・アインシュタイン博士が言ったように、「誰かのために生きてこそ、人生には価値がある」のです。また、メータ会長は「もっと行動し、もっと成長する」とも言われております。

「もっと行動し」とは、より大きく、インパクトをもたらす奉仕プロジェクトを意味します。「もっと成長する」とは、会員を増やし、参加者基盤を広げることを意味しま

す。過去17年以上、ロータリーの会員数は120万人のまま横ばいとなっております。メータ会長は、2022年7月1日までに会員数を130万人に増やすことを目標としています。2640地区は、かつては3000名を超える会員数がありましたが、現在は1700名まで減少しています。メータ会長が言われるように奉仕の原動力は、我々ロータリアン一人一人であり、会員数を増やすことで世の中を良くしていく力を付けていくこととなります。地区ビジョンの中にも明記させて頂きましたが、まずは地区の会員数を早期に1800名まで回復させることを目指します。

ロータリーの中核的価値観の1つが多様性であります。多様性の中でも女性に焦点をあて、会員の3割以上、ロータリーのリーダーの3割以上を女性にすると目標を立てています。2640地区では、女性会員の割合が7.7%と少ないですが、世界では女性会員の割合が23%になっています。元々ロータリーは男性社会で、女性がロータリーの会員になれるようになったのは、1989年のことです。2022-2023年度には、ロータリー115年の歴史で初めての女性RI会長ジェニファー・ジョーンズ会長が誕生します。ロータリーの奉仕の理念や価値観を共有できる方を増強して、その結果女性会員が増えることを願います。また若い人や外国から来日された人等、多様なバックグラウンドがある会員の増強に努めていきます。

シェカール・メータRI会長は、広く一般の市民も参加できる、ロータリー奉仕デーの実施を呼び掛けています。従来のロータリーは、公共イメージの向上に力を入れてこなかったため、世間一般での知名度は高くないです。クラブ単位で、分区単位で一般の市民の方が参加できるロータリー奉仕デーの企画・実行を行い、ロータリーの公共イメージの向上に努めて下さい。

昨年の11月にRI理事会に初めてSRF(ロータリーの未来形成)が報告されました。現在のロータリーの地区やガバナーは十分に機能していないとして、今後10年をかけて、ロータリーの組織を変えていく計画です。地区やガバナーを廃し、リージョンとセクションを設置してこうです。日本1国で1つのリージョンとなり、102程度のセクションを配置していくそうです。2022年の規定審議会では、SRFのパイロットリージョン案が上程される予定になっており、近隣では台湾がパイロットリージョンに選定されています。

SRFの目的は、RIの中間組織の簡素化によってフラットで風通しのよい組織に再構築するとされていますが、日本のロータリーでは、非効率な組織構造のままRIの中央集権型の構造は残ってしまうとして、否定的な意見も多いようです。今後の規定審議会において、どのよう

なるのかは分かりません。地区情報規定委員会より、新しい情報が分かり次第お知らせさせていただきます。

ロータリー財団と米山記念奨学会への寄付のお願いをさせていただきます。ロータリー財団は、1917年に6代目RI会長アーチクラフの「世界でよいことをしよう」との呼びかけで、最初の寄付26ドル50セントから始まり、現在では10億ドルを超える財団になっています。継続的に奉仕を行うためには、安定した資金が必要です。

ロータリー財団のプログラムの中にポリオプラスがあります。1979年にフィリピンで児童への経口ポリオワクチンの投与が行われ、1985年にポリオプラスキャンペーンが始まり、世界からポリオを根絶するために財団への寄付が活用されました。昨年アフリカでのポリオ野生株の根絶がWHOで確認されました。あと残すは、アフガニスタンとパキスタンの2か国だけです。引き続き、ポリオプラスも含めて財団へのご寄付をお願いします。寄付目標は、年次寄付一人当たり180ドル、ポリオプラス寄付30ドルをお願いします。

米山梅吉翁の遺徳を記念する事業として1952年に東京ロータリークラブは、日本で学ぶ外国人留学生を支援する国際奨学事業を始めました。これが今日のロータリー米山記念奨学会事業の始まりです。米山奨学生は、日本と母国の架け橋となる人材を選考していき、この50年間に累計で2万人、出身国は120を超える国と地域になります。寄付目標は、米山普通寄付を一人当たり6000円、米山特別寄付を一人当たり10000円とさせて頂きました。

日本国内34地区は、ロータリー財団への寄付と米山奨学会への寄付ゼロクラブゼロを目指しております。奉仕の原資として寄付をすることは当然のことなのですが、34地区で足並みを揃えるためにも、ゼロクラブゼロを目指していきたいと思っております。どうぞ、上半期のうちに些少でもご寄付して頂くことをお願い申し上げます。

私はロータリーの最大の奉仕は、人創りだと思います。米山奨学生やローター・アクター、インター・アクター、青少年交換学生、RYLA研修生の育成を通じて、世界でよ

いことを実践する人材を輩出することが使命だと思えます。一方我々ロータリアンも自己研鑽を積み成長していく必要があります。また次世代のロータリアンの育成に尽力する必要があります。2640地区では、RLI(Rotary Leadership Institute)を開催します。RLIは、国際ロータリー公認のプログラムではありませんが、国際協議会でも導入されているファシリテーター方式によりロータリーを理解するプログラムです。けして、単なる会議の進め方ではありません。RLIのプログラムの中には、DL(Discussion Leader)の存在が重要であり、2640地区ではDLの育成に重点をおきます。各クラブにおいて、将来を担う人材をDL研修に出して頂くことをお願いいたします。

2640地区では、戦略委員会にて地区の中期ビジョン、アクションプランなど直前ガバナーを委員長とし、パストガバナー、ガバナー、ガバナーエレクト、ガバナーノミニーと共に検討しています。各クラブにおいても、どんなクラブにしたいのか、どんなクラブであるべきなのか、どんなクラブを目指すのか、クラブの柔軟性、継続性において検討をお願いします。クラブの将来ビジョンに基づいて、実行するべきことを考えて行きましょう。

ロータリーの生みの親である、ポールハリスは、生まれはウィスコンシン州ですが、子供時代から青年期を東海岸のバーモント州で過ごしました。最初に入學した大学はバーリントン市にあるバーモント大学です。私もポールハリスの100年後、同じバーリントン市で学生時代を送りました。バーモントは、本当のんびりとした田舎で、人の数より牛の数の方が多いと言われています。そんなバーモントの田舎から、マフィアのアルカポネが暗躍する大都会シカゴで弁護士事務所を開業したポールハリスは、殺伐としたシカゴで本当に信頼できる友人を得るためにロータリークラブを設立しました。ポールハリスは、ロータリーの例会に出席すると「童心に還る」と言われております。ですから、ロータリーの原点は、信頼できる友人と出会える場なのだと思います。もう一度、地区スローガンに戻りますが、「広げようロータリーの光を!」、ぜひロータリーの友愛の光を広げて、志を同じくする仲間を増やしていきましょう!



田原 副会長 乾 次期会長 土屋 ガバナー補佐 豊岡 ガバナー 瀧川会長 角谷幹事